

提 案 書

※ 記入上の注意

- ① 第2号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
- ② 第2号様式は広く情報公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
- ③ 資料をA4判2ページまで添付することができます。その際、資料の両側に15mm以上余白を確保してください。
- ④ 提案書、添付書類は、選考委員会委員には白黒コピーで配付します。

提案名 (25字以内)	探してみよう市民活動 in「横浜MM21」
グループ名 (25字以内)	NPOスクエア連絡会
グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近5年以内の実績	NPOスクエア（ワールドポーターズ6階事務所スペース）には15団体（個人を含む）が入居しており、個々に地域社会貢献活動を行っている。NPOスクエア連絡会として2002年より毎年、ワールドポーターズのバリアフリーフェアに参画、バリアフリーに関するフォーラムを開催している。 2008年度はワールドポーターズのバリアフリーマップ（かながわ県民活動サポートセンター助成）を作成、ワールドポーターズ館内で来訪客に配布し、毎月行われている車椅子研修や横浜市内の高校（福祉クラス）などで利用している。 2009年度は「みなとみらい21エリアマネジメント活動助成」を受けてMM21にて車椅子探索を行い、バリアフリー度を体験、関係機関に報告している。
助成金を受けて行う活動の目的 （「地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上」にどう資するか具体的に記入してください。）	MM21は高層ビル（企業・オフィス・観光）というイメージが大きいですが、居住区もあり、また2009年度のMM21エリアマネジメント活動助成に参加して、多くの市民がMM21を舞台に活動していることがわかった。さらにFMC（フェリス女子大学）の活動を通して、MM21を訪れる観光客は郵便局やコンビニエンスストアを探しているなどの意外性もわかった。 これらの市民活動や観光客のニーズをマップで紹介することでMM21の新しい側面（おもしろさ）を知ってもらい、初めて「横浜みなとみらい21」を訪れる観光客への情報提供だけでなく、再度訪れる居心地のいい場所としてリピーター増加への足がかりになるなど、観光振興にも役立つものとしたい。 また昨年から引き続いてMM21の関係機関と車椅子ユーザーとの情報共有の場を持ち、彼らの快適さを伝えることで、足腰の弱い高齢者や乳母車を使う家族連れも安心して再訪するMM21に貢献したい。

助成金を受けて行う活動の内容	「横浜みなとみらい21」で行なわれている市民活動のヒアリングを行ない、それらをミニガイドにまとめて、FMCなどの活動に利用してもらう。 車椅子ユーザーとバリアフリーに関心のあるテナントや企業の有志と車椅子ユーザーの情報交換を行う。
今回の提案の特徴その他特にPRしたい点	・「横浜みなとみらい21」のバリアフリーの見直し検証ができる ・「横浜みなとみらい21」テナント向けマニュアルとしてガイドマップと手引き作成の資料となり、車椅子用研修などの学習素材が提供できる ・「横浜みなとみらい21」のビルオーナーやテナントのバリアフリー意識（ソフト、ハード両面）の把握と情報共有が図られる ・「横浜みなとみらい21」を訪れる車椅子（高齢者を含む）や乳母車（家族連れ）が増える ・CSRへの対応策のひとつとなる バリアフリーというとハード整備に目が行きがちであるが、どうしても来訪者が気持ちよく目的を達せられるか、ソフトでの対応が重要である。 障害者トイレが設置基準にいくら合格していたとしても、同行する家族や友人が外で長い間立ったまま待たされるのでは居心地悪い。 などなどバリアフリー意識は多様であるがゆえに、車椅子ユーザーと直接の意見交換は重要である。彼らは特別視されたいわけではなく、ハードでの多少の不便もソフトでの臨機応変の対応によって、違和感を感じずに気持ちよく過ごせるものと考える。

● 活動計画

助成金を受けて行う活動の内容を月ごとに記入してください。すでに行った活動がある場合は、そちらも記入してください。

2009年10月 ～2010年3月	車椅子探索、車椅子研修、関係機関との意見交換、報告書作成
2010年5月	報告会にて活動の発表、この場でミニガイド作製のためFMCとの連携をさぐる。
8月	2010年度後期申請のために、協力者との連絡調整を始める
9月	申請書提出・公開選考会
10月	ミニガイド作製のために、ヒアリングと打ち合わせ
11月	ミニガイド作製のために、ヒアリングと打ち合わせ
12月	ミニガイド作製のために、ヒアリングと打ち合わせ
1月	ミニガイド編集会議
2月	ミニガイド編集会議
3月	ミニガイド出版と利用開始